

雑司が谷旧宣教師館だより

第9号

1998年10月20日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷1-25-5 ☎FAX(03)3985-4081



全国町並みゼミ (第10回) 東京大会開催される!

これは「全国町並み保存連盟」(伝統的な町並みの保存・活用や、歴史を活かしたまちづくりに取り組む市民団体)が、1978年から毎年開催しているもので、今年が16年ぶりに二度目の東京での開催です。

参加者は、妻籠の集落保存や、小樽では運河や倉庫の保存などに携わってきた日本各地の住民たちで、地域から全国へと活動を展開して、日本の歴史的環境を保護しようと努めています。



この雑司が谷旧宣教師館も、16年前の1982(昭和57)年、古い洋館を壊してマンションを建設することが決まった時、地元住民が保存運動を起し、明治大正期の雑司が谷の歴史文化を色濃く残す建物として、豊島区が土地と建物を取得しました。

その後、建造物調査・保存修理工事・復元後の利用計画の検討を行い、平成元年1月に豊島区立雑司が谷旧宣教師館として開館しました。

今回の大会では「東京の保存運動—この16年—」の中で、雑司が谷旧宣教師館の保存運動から現在の様子までを、谷根千(谷中・根津・千駄木)(文京区)、神楽坂(新宿区)、千住(足立区)で起こっているまちづくりとも報告されました。

このゼミに参加しているのは、いわゆる調査を持ってた人でも、建築の専門家でもありません。市民です。合理性、機能性、経済性を追求する開発の中で、日頃情れ親しんだ自分たちの「まち」を活かしていこうと試みている人々です。

現在、連盟には70団体が加盟しているそうですが、いくつかご紹介しましょう。

○妻籠を守る会(長野県) ○竹富島を守る会(沖縄県) ○川越職の会(埼玉県) ○長崎・中島川を守る会(長崎県) ○喜多方のれん会(福島県) 等です。

旅先で美しい家並みや、初めて訪れるのに懐かしさを感じる景色に出会ったことはありませんか。人々の努力の結果が地域の文化となり、景観となって後世へと引き継がれていくのでしょ。

(東京大会の資料あります。ご覧になりたい方は事務室にお申し出ください。)

徳富蘆花とマッカーレブ

代表作『不如帰』や『おもひでの記』の小説家・徳富蘆花(1868~1927)とマッカーレブとの間に親交があったことは、マッカーレブ研究者である野村基之氏の『芦花さんと宣教師マケレブさん』(1983)で明らかになりましたが、ここ旧宣教師館の展示にはその証拠になるようなものがありませんでした。

この夏に野村氏より、徳富一家とマッカーレブの関係を知り付けた証人である原嶋豊之助氏(故人)のご遺族が、芦花がマッカーレブに宛てた書簡を保管されているとの情報をいただき、早速お訪ねしました。

蘆花会員でもあった原嶋豊之助氏は、生前熱烈な蘆花の信奉者だったそうです。お訪ねした応接間には、その書簡が、額縁に入って飾ってありました。

ご子息の奥様から、原嶋氏の思い出を含めてお話を伺って参りました。蘆花とマッカーレブそして原嶋氏のこの3人の関係を簡単に紹介します。(裏面へ)

「原嶋豊之助氏は大正6年7月に一高の受験に失敗し、父親の知人・徳富蘆花の紹介で宣教師マッカーレブのもとで学僕をしながら、翌年にむけて英会話の勉強と受験勉強をした。」ということですが、学僕の一日を追ってみると、...

午前5時起床。

二階建ての広大な寮（※雑司が谷学院）で、更に三階に院長室がありマッカーレブさんの事務室であった。朝起きると下から上まで戸を開けて歩く。廊下の掃除も一仕事である。膳、さんの手伝い。30余名の朝食とお弁当作り、片付け後に膳さんと食事。

マッカーレブさんの世話がずみ、部屋の手入れをして机に向かうのが9時。11時残留生の昼食の支度。午後500坪の庭の手入れ。一息入れて勉強にかかる頃には夕飯の仕事。これは全員が揃い、料理も疑っているのが大仕事である。三度三度の食事の合図の鐘ならしもあり、夕方は全寮の戸締り。

という訳で一日やってみて仰天し、受験勉強どころではないと、学院出奔を企てます。家に着く頃に自分の軽率に後悔し始めたそうですが、父親に目玉が飛び出すほど叱られ信玄袋を担いで戻ったそうです。

このとき蘆花はマッカーレブに、自分の紹介した学僕の状態を詫言する手紙を書きました。これが額縁の中に収まっているものということです。

そのころ蘆花の人氣は絶頂期で、その紹介ということで単なる学僕という立場を離れて皆親切にしてくれたそうです。翌年4月原嶋氏は東京外語に進学し、学院を去ります。

◎英文で書かれた蘆花からの手紙、借用してきました。現在写真撮影中です。次号でご紹介します。



🌸 花ごよみ 🌸

暑い夏も終わり、虫の声と共に雑司が谷旧宣教師館の庭にも秋の訪れを感じます。

これから秋を代表する花、ユズダレ・秋明菊・キンモクセイ・ハギ・ヒイラギ等が咲き始めます。

今回はこの中の花木「キンモクセイ」について、紹介したいと思います。



「キンモクセイ」

科名 モクセイ科常緑広葉中高木

花期 9月下旬～10月上旬

適地 日なた 半日陰

芳香のある黄橙色の小花が、樹皮に集まって咲き庭木として愛されており、名前は幹の肌が淡灰色でその紋様が、犀の皮に似ていることから名付けられました。

キンモクセイは花が黄橙色で、園芸的にはモクセイと呼んで乳白色の花色の方をギンモクセイと呼んでいます。

秋風の中はのびのびと漂うキンモクセイの薫りは来館者の足をとめます。是非訪れて下さい。反り目

来館者の声

♡大正テモクラシーの頃、雑司が谷が若き文士たちの活動の拠点だったことなど、とても勉強になりました。(30代、女、北海道、日本女子大のクラブで、8/19)

♡充実した内容の展示、ビデオ等を無料で拝見させていただきました。さすが文京区という感じです。(男、都内、地図をみて、初めて、8/29)

ここは豊島区です。ヨロシク!!

【編集後記】3日間の「町並みゼミ」に参加。山田洋次監督の「寅さんの愛した町並み」(メタン講演)が象徴的だった。寅さんの心中では日本中の町並みが変わっても、寅又だけは変わらないから帰れるのだという。2日目分科会「近代建築の保存と活用」丸の内ビルディング群を見て回った。60歳からが第二の人生と豪語する全国の建築家達と共に。元気を分けて貰った気がしている。(文責 地)